

地域社会における余暇志向についての一考察

—坂戸市について—

永 都 久 典 齊 藤 保 夫
 武 藤 幸 政 横 内 靖 典
 明 石 正 和 畠 山 栄 子

1 調 査 目 的

我国の社会構造の変容の中にあつて、都市化現象は、交通、通信の発達による日常生活圏の拡大、都市的生活様式の定着、生活環境の悪化、人間関係の希薄化など市民生活にさまざまな影響を与えた。一方、余暇（leisure）増大の傾向は、人生観、労働観、余暇観など価値観の変化をきたした。特に余暇活用は、自然、健康、教養志向の中で、自己実現の場の拡大や生活の充実をはかり、生活の豊かさを求めるようになり、地域生活確立のため、新しい動きが見られるようになった。この社会的変化の中にあつて、坂戸市周辺は、地理的環境条件から急激に強く都市化が浸透している地域といえよう。そこで坂戸市民の生活の実態を調査し、地域生活の新しい動向をとらえ、地域研究を推進すると共に、今後の生涯教育、余暇教育など市民の生活に役立て、体育的見地から社会体育の在り方等についての示唆を、得ようとするものである。

2 調 査 対 象

- (1) 坂戸市住民 1,000名
- (2) 20才以上の男女各 500 名を、選挙人名簿により Random sampling により抽出した。

3 調 査 方 法

- (1) 質問紙法により調査し、回答を得た。
- (2) 調査内容は、資料参照。
- (3) 調査期間 昭和57年 3月15日～31日

(4) 回収方法 質問紙を郵送し返信する方法を取った。回収率は、36.1%であった。(男性186名、女性177名)

4 調査結果と考察

(1) 家族構成についてみると、子供の人数では、2人が40.4%、1人24.3%、子供がいない、20.5%であった。1世帯当りの子供の人数平均値は、1.46人であり、4人家族が多い傾向である。(図1参照)

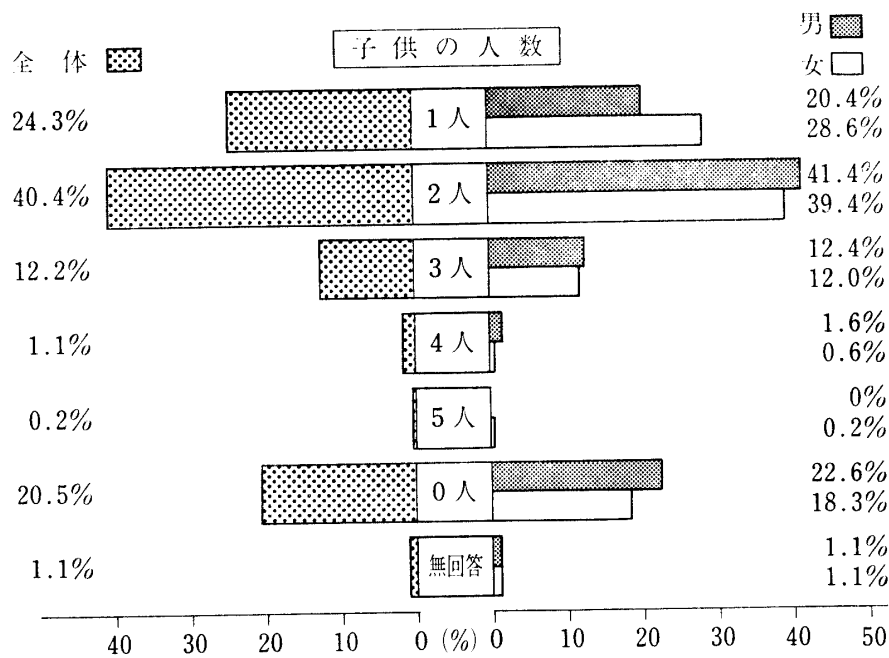


図1 家族構成(子供の人数)

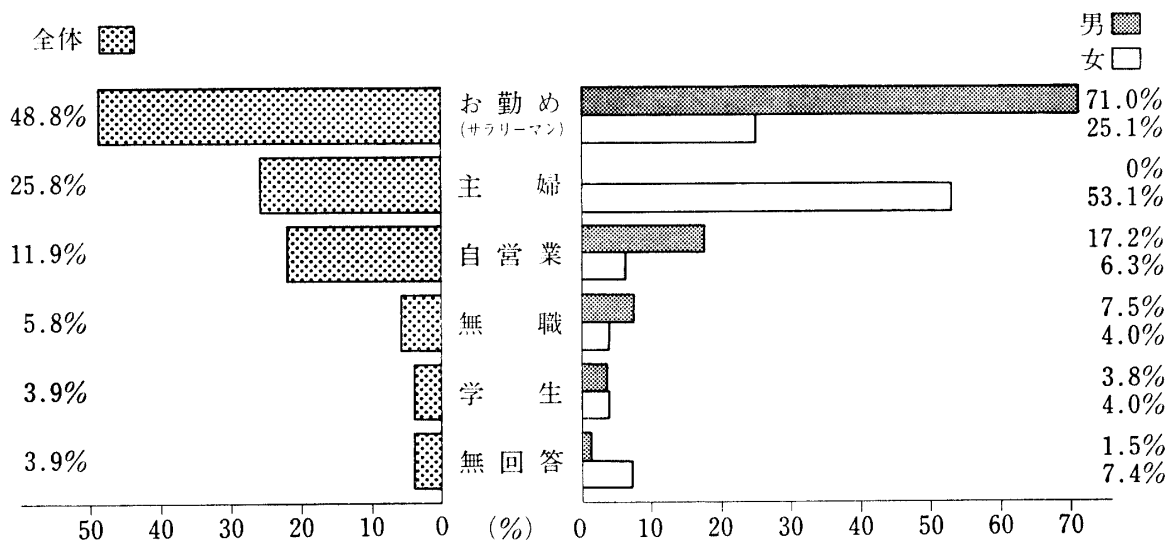


図2 職業について

(2) 職業についてみると、男性は、勤め71%と多く、次に自営で17.2%であり、女性は主婦が53.1%、勤め25.1%であった。(図2参照)

通勤範囲（移動する人のみ回答、但し学生は、少数により除く）については、全体では坂戸市内が34.7%、坂戸市外で60分以上28.8%、坂戸市外で30分未満18.9%の順であり、通勤時間が分極化の傾向もみられる。男女別にみると、男性は、坂戸市外で60分以上が多く、女性は、坂戸市内が多い傾向であった。

自営業の人の通勤時間についてみると、男性は、坂戸市内が68.8%であり、女性も坂戸市内が63.6%であり、このことから、自営業の人は、坂戸市内で商をしている人が多いことがわかる。

勤めの人の通勤時間についてみると、男性は、坂戸市外で60分以上のところ38.6%で坂戸市外で30分～59分までのところが20.5%、坂戸市外で30分未満のところ22.7%、坂戸市内が18.2%であった。女性は、坂戸市内が54.5%、坂戸市外で30分未満のところ25%、坂戸市外で60分以上が15.9%であった。男性は、通勤時間がまちまちであった。これは職種の多様化や首都圏に職場が広がっているものと思われる。女性は、主婦業に比重を置くため市内中心の傾向にあるように思われる。(表1参照)

(3) 年齢層についてみると、本調査では、30～39才が37.4%、40～49才が26.6%、20～29才が15.5%であり、回答者は、一般的に働き盛りの人が多い傾向である。坂戸市調査による年齢別人口表、昭和57年度及び昭和59年度の調査と比較すると、男性は、ほぼ同様の傾向であるが、女性

表1 通勤時間（1, 2, 3のいずれかに○をつけた人）

	自 営 業						お 勤 め					
	男		女		計		男		女		計	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
市 内	22	68.8	7	63.6	29	67.4	24	18.2	24	54.5	48	26.8
30' 以内	1	3.1	0	0	1	2.3	30	22.7	11	25.0	41	23.3
30'～59'	3	9.4	0	0	3	6.3	27	20.5	5	11.4	32	17.9
60' 以上	6	18.8	0	0	6	14.0	51	38.6	7	15.9	58	32.4
無回答	0	0	4	36.4	4	9.3	0	0	0	0	0	0

	全 体					
	男		女		計	
	数	%	数	%	数	%
市 内	46	28.0	31	53.4	77	34.7
30' 以内	31	19.0	11	18.9	42	18.9
30'～59'	30	18.3	5	8.6	35	15.8
60' 以上	57	34.8	7	12.0	64	28.8
無回答	0	0	4	6.8	4	1.8

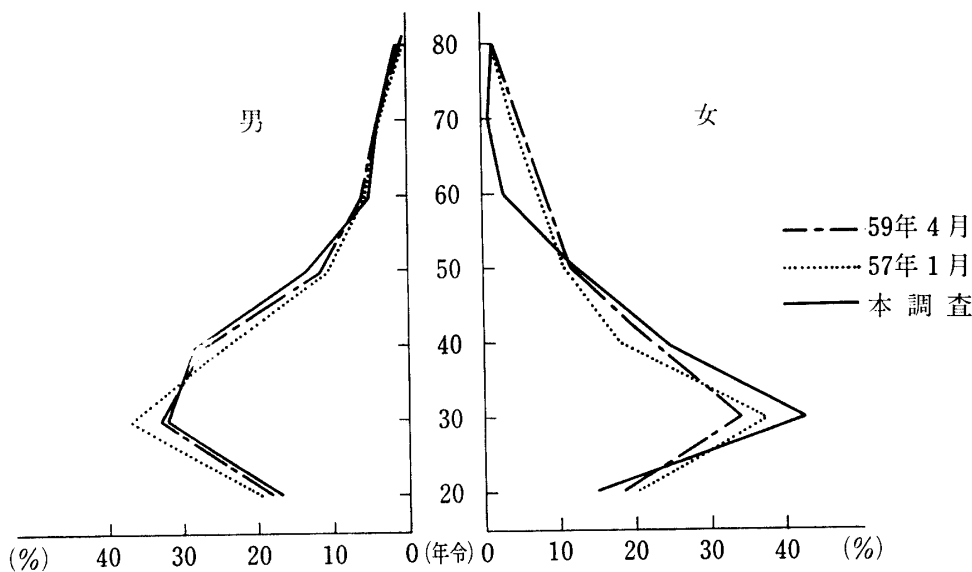


図 3 年代別人口表

の場合は、本調査の方が、30～39才代が多く、60～69才代が少ない傾向であるが、ほぼ実状をとらえていると思われる。(図 3 参照)

(4) 自由時間の活用についてみると、5～10時間をピークに、自由時間の利用は多くなっている傾向である。なかには、時間的に余裕のある人も多い様に思われる。しかし女性で5時間以下という人が、8.6%もいることが注目される。このことは、女性でも勤めている人が多いことが原因しているものと思われる。(図 4 参照)

(5) 自由時間の過ごし方についてみると、全体では、テレビを観る15.8%、読書12.2%、買物11.1%、園芸6.2%等々となっている。男性は、テレビを観る16%、読書10.1%、飲酒7.3%となっており、女性は、買物16.4%、テレビを観る15.6%、読書14.6%であった。男性では、3番目

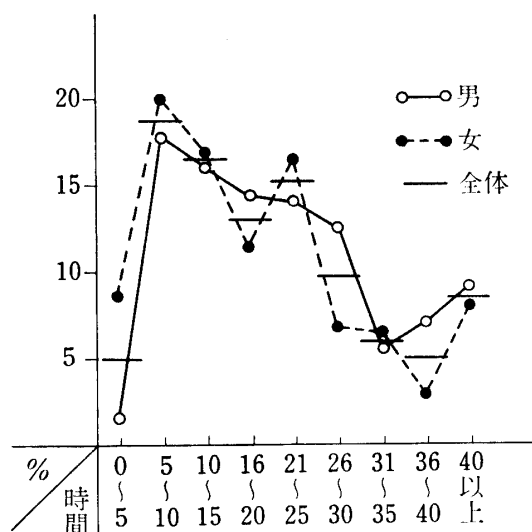


図 4 自由時間の活用度 (1週間)

表2 自由時間の活用について

順位	項目	目	全体	男	女
			数	数	数
			%	%	%
1	T	観る	23015.8	① 2316.0	② 10715.6
2	1	TV	17812.2	① 7810.1	③ 10014.6
3	3	読書	16211.1	④ 496.4	① 11316.4
4	4	買物	906.2	⑤ 435.6	⑤ 476.8
5	5	友人訪問	906.2	⑦ 415.3	④ 689.9
6	6	音楽	855.8	③ 447.3	⑥ 446.4
7	7	飲酒	594.1	③ 567.3	30.4
8	8	旅行	543.7	⑧ 425.5	⑨ 121.7
9	9	ゴルフ	392.7	⑧ 374.8	20.3
10	10	盆踊	372.5	172.2	202.9
11	11	テニス	332.3	⑨ 23.9	30.4
12	12	散歩	302.1	⑩ 233.0	71.0
13	13	読書	292.0	91.2	202.9
14	14	テニス	221.5	131.7	91.3
15	15	ゴルフ	211.4	192.5	20.3
16	16	読書	201.3	202.6	0.0
17	17	読書	181.2	131.7	50.7
18	18	読書	161.0	141.8	20.3
19	19	読書	171.1	111.6	60.9
20	20	読書	140.8	121.4	20.3
21	21	読書	130.8	30.4	101.5
22	22	読書	130.8	121.6	101.1
23	23	読書	90.6	0.0	91.3
24	24	読書	80.5	10.1	71.0
25	25	読書	80.5	150.7	30.4
26	26	読書	80.5	70.9	10.1
27	27	読書	70.4	20.3	50.7
28	28	読書	70.4	150.1	60.9
29	29	読書	60.3	30.4	10.1
30	30	読書	60.3	30.4	30.4
31	31	読書	50.3	20.3	30.4
32	32	読書	40.27	40.5	0.0
33	33	読書	40.27	40.5	0.0
34	34	読書	40.27	20.3	20.3
35	35	読書	30.2	20.3	10.1
36	36	読書	20.1	10.1	10.1
37	37	読書	20.1	20.3	0.0
38	38	読書	20.1	20.3	0.0
39	39	読書	20.1	0.0	0.0
40	40	読書	0.0	0.0	0.0
41	41	読書	0.0	0.0	0.0
42	42	読書	0.0	0.0	0.0
43	43	読書	0.0	0.0	0.0
44	44	読書	0.0	0.0	0.0
45	45	読書	0.0	0.0	0.0
46	46	読書	0.0	0.0	0.0
		計	1,456	769	687
			7.0	4.6	43.8
				49.0	43.8

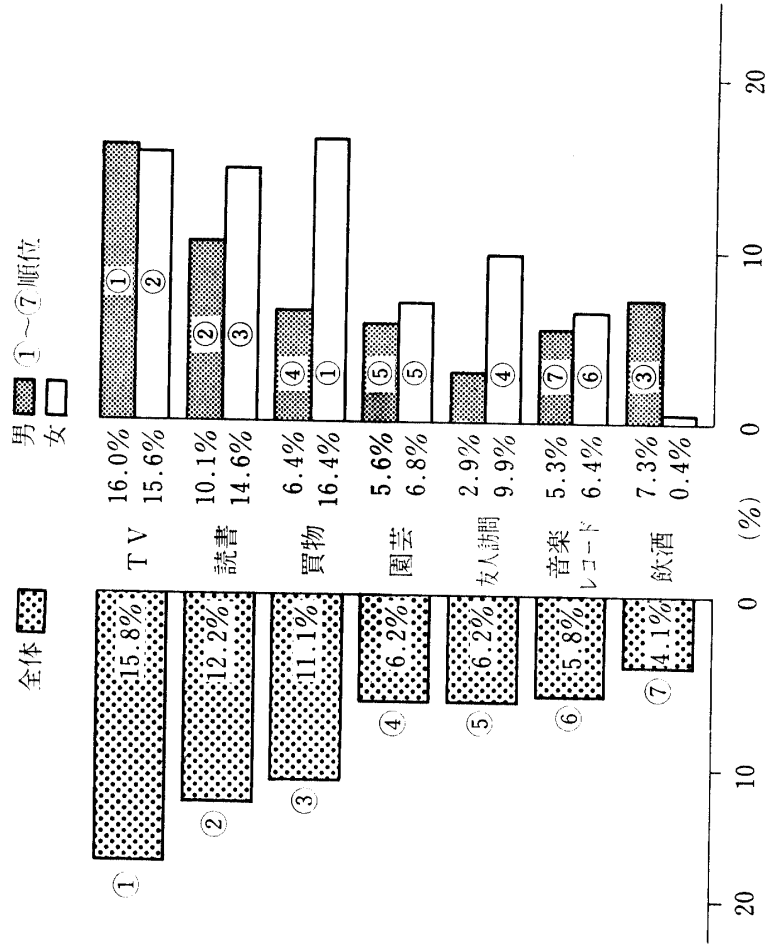


図5 自由時間の活用度

表 3 サークル活動について

順位	サークル・項目	全体		男		女	
		数	%	数	%	数	%
1	5 ゴルフ	24	9.3	1	17.2	1	0.8
1	3 ソフト・ボール	24	9.3	2	15.7	3	2.5
1	14 書道	24	9.3	5	3.7	19	15.6
4	1 テニス	16	6.2	4	6.7	5	5.7
4	17 お茶生花	16	6.2	0	0	16	13.1
6	9 つり	15	5.9	3	11.2	0	0
7	2 バレー	13	5.1	2	1.5	11	9.0
8	10 ダンス	9	3.5	0	0	9	7.4
9	13 絵	7	2.7	0	0	7	5.7
9	19 写真	7	2.7	6	4.5	1	0.8
11	15 短歌・詩・俳句	6	2.3	3	2.2	3	2.5
12	16 詩吟	5	1.9	4	3.0	1	0.8
12	6 ハイキング	5	1.9	5	3.7	0	0
12	7 ジョギング	5	1.9	3	2.2	2	1.6
15	11 コーラス	3	1.2	0	0	3	2.5
15	12 読書	3	1.2	1	0.7	2	1.6
17	4 ボーリング	2	0.7	2	1.5	0	0
18	8 オリエンテーリング	1	0.3	0	0	1	0.8
18	18 陶芸	0	0	0	0	0	0
20	20 その他	71	27.7	35	26.1	36	29.5
	計	256		134	52.3	122	47.7

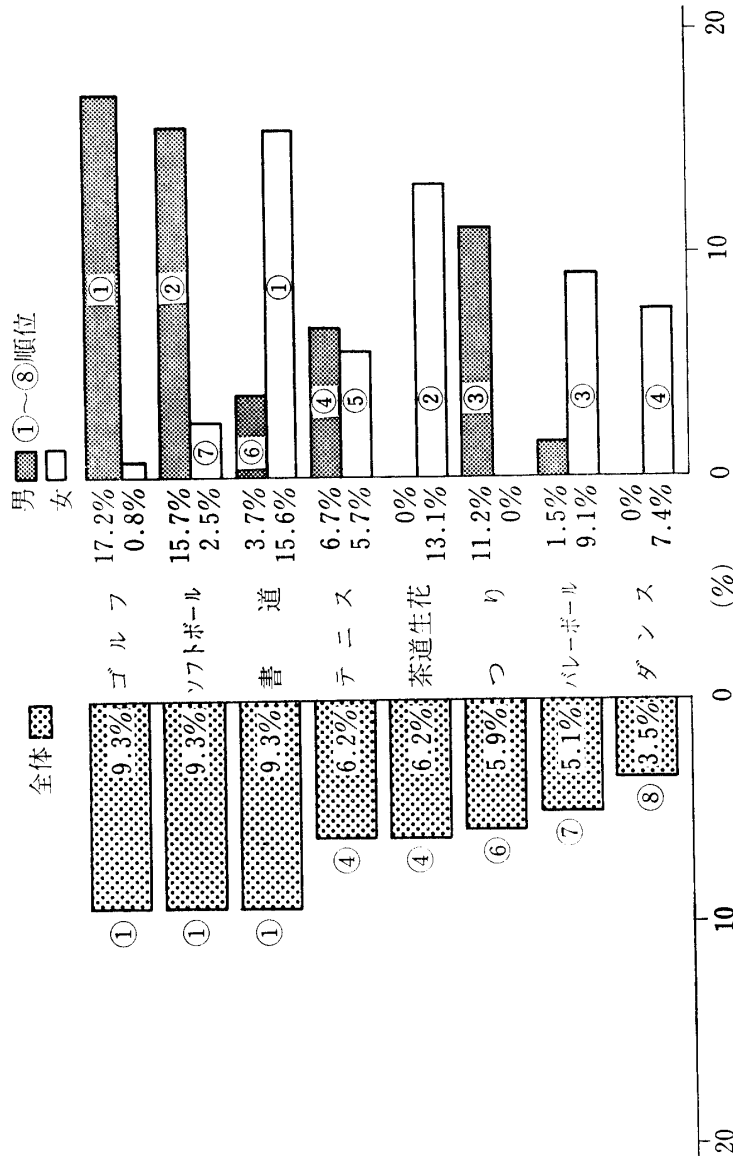


図 6 サークル活動

の飲酒，女性では，1番目の買物に特徴がある。このことから，男性は，休息型で女性もほぼ同様であるが，買物で気分転換を計ろうとする傾向にあるように思われる（表2，図5参照）

(6) サークル活動についてみると全体的に多いものとしては，ゴルフ9.3%，ソフトボール9.3%，書道9.3%，テニス6.2%，茶道・生花6.2%，つり5.9%等々であった。男性は，運動関係（スポーツ）の活動的なサークルに入っているのに対して女性は，書道15.6%，茶道・生花13.1%といった文化的サークル活動に入っている傾向が多いように思われる。女性の運動としては，バレーボール，ダンス，テニスが多いのに対し，男性は，ゴルフ，ソフトボールが圧倒的に多かった。（表3，図6参照）

(7) レクリエーション活動の理由についてみると，全体では，健康のため23.8%，気分転換22.5%，生活を楽しむ19.7%等であった。男性は，全体と同じ順位であるが，女性は，生活を楽しむ22.7%，気分転換20.7%，健康のため29%であった。このことから，男性の場合は，健康志向が強く，女性の場合は，教養志向が優先しているように思われる。（図7参照）

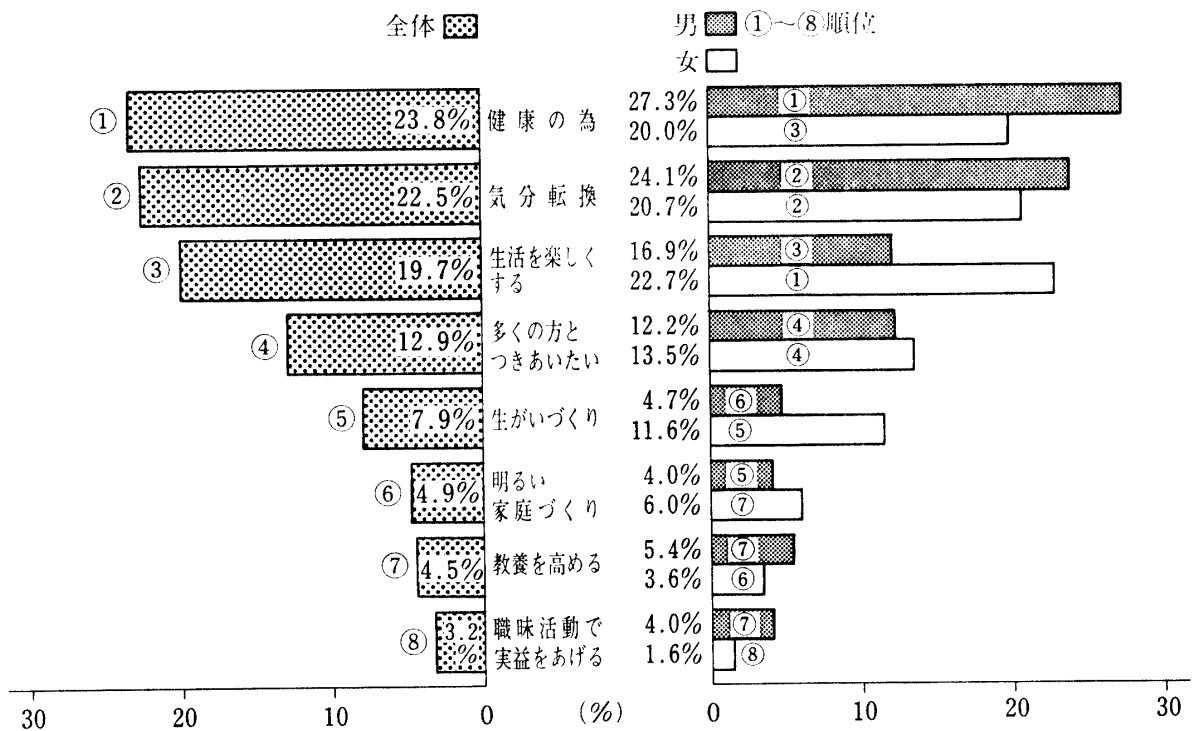


図7 理由（レクリエーション活動）

(8) レクリエーション活動の講習会，研修会，行事の参加についてみると，男性は，スキー19.3%，キャンプ12.4%，テニス9.6%等々の順で，女性は，手芸18.3%，編物14.9%，書道10.6%の順であった。このことから，男性は，アウト・ドアタイプのサークルに参加し，女性は，文化的なライフ・スタイルのサークルに参加している傾向が顕著に現われていることが注目される。（表4，図8参照）

表 4 講習会参加について

順位	項目	全体		男		女	
		数	%	数	%	数	%
1	手	39	11.0	1	0.7	①38	18.3
2	ス	35	9.9	①28	19.3	⑧7	3.4
3	書	33	9.3	④11	7.6	③22	10.6
4	編	31	8.8	0	0	②31	14.9
5	キ	30	8.5	②18	12.4	⑥12	5.8
6	テ	28	7.9	③13	9.0	⑤15	7.2
7	バ	20	5.7	2	1.4	④18	8.7
8	レ	16	4.5	⑨4	2.8	⑥12	5.8
9	歌	10	2.8	⑤8	5.5	2	1.0
10	ム	9	2.5	③5	3.4	4	1.9
10	ト	9	2.5	⑨4	2.8	5	2.4
10	ミ	9	2.5	2	1.4	⑧7	3.4
13	画	7	1.9	⑥6	4.1	1	0.5
13	グ	7	1.9	2	1.4	5	2.4
15	作	6	1.6	⑥6	4.1	0	0
16	道	3	0.8	2	1.4	1	0.5
16	道	3	0.8	2	1.4	1	0.5
16	ト	3	0.8	0	0	3	1.4
19	の	1	0.2	1	0.7	0	0
20	そ	58	16.4	34	23.4	24	11.5
	計	353		145	38.0	208	54.5

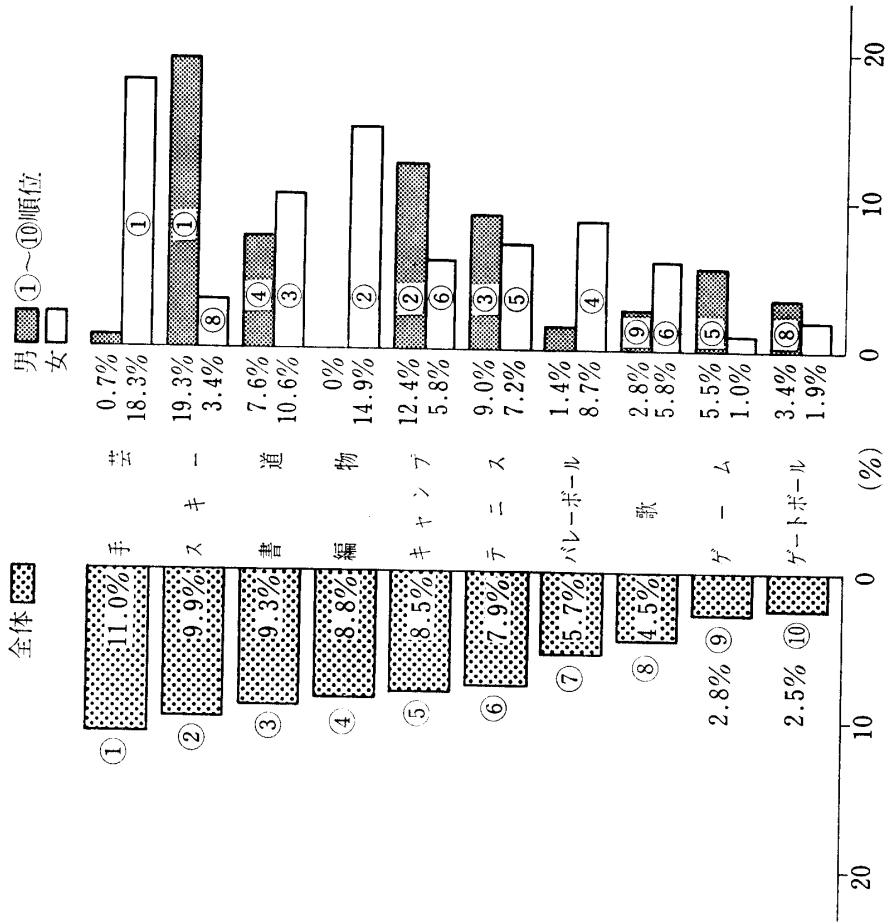


図 8 講習会等参加状況

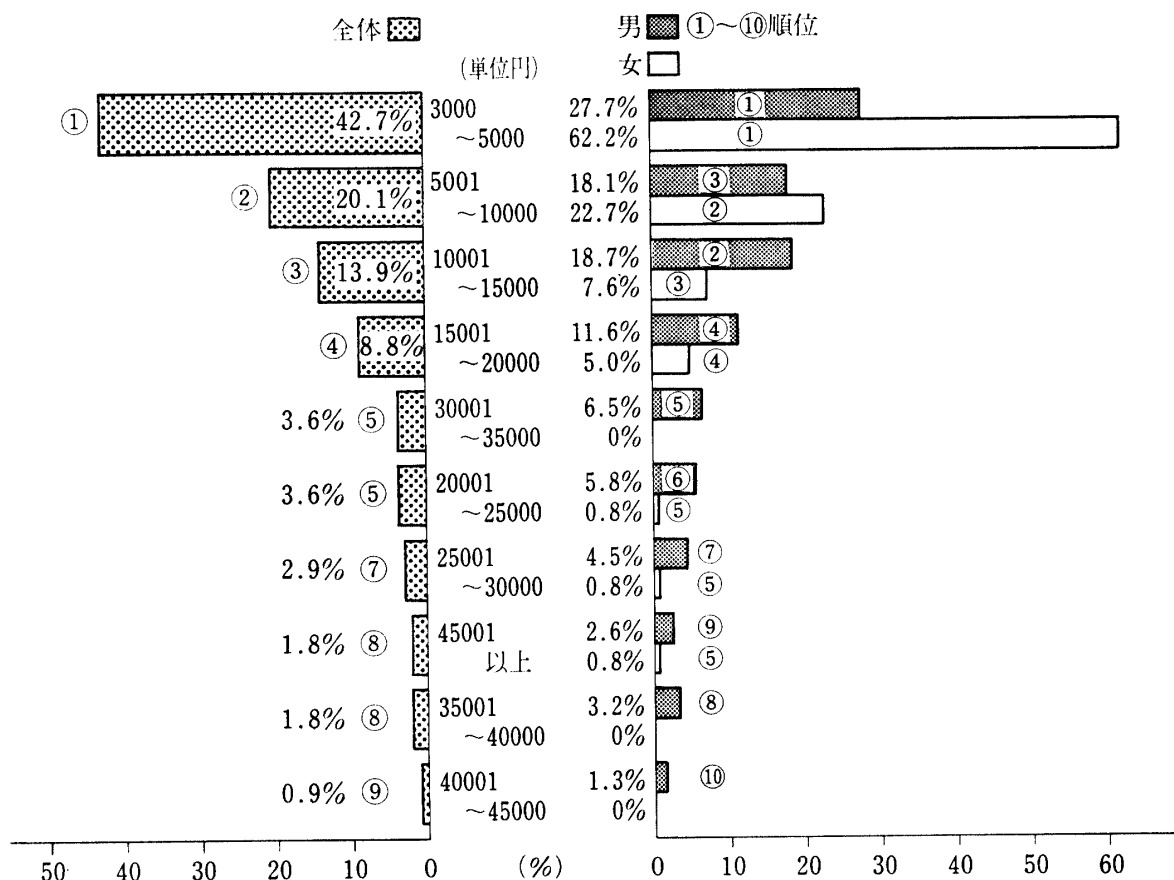


図9 レクリエーション活動の使用金額 (月額)

(9) レクリエーション活動の使用金額 (月額) についてみると、全体では、3,000~15,000円42.7%、5,001~10,000円22.7%、10,001~15,000円7.6%の順となっている。男性では3,000~5,000円27.7%、10,001~15,000円18.7%、5,001~1,000円18.1%の順であった。女性は、3,000~5,000円62.2%が圧倒的であった。(図9参照)

(10) これから行いたいレクリエーション活動についてみると、男女ともに国内旅行が圧倒的に多く、男性は、次に各種スポーツ、園芸、盆栽の順であり女性は、稽古ごと、ハイキングの順になっている。このことから男女ともに教養志向や健康志向が強い傾向であるように思われる。

(表5, 図10参照)

(11) どんな施設を利用しているかについてみると全体では、公民館20.1%、公園9.6%、体育館9.4%、川8.8%、河川敷7.9%であった。男性は、川が15%、公園11.4%、公民館11%、河川敷10.6%の順で、女性は、公民館が31%と圧倒的に多く、体育館12.2%、公園7.5%、文化会館7.5%の順であった。男女共に公共施設、学校施設の利用等幅広く活用しているように思われる。(表6, 図11参照)

(12) これから市内にどんなレクリエーション施設があったらよいかという希望についてみると、全体では、運動公園13.2%、植物園11%、海の家7.6%、水泳プール7.6%の順であった。こ

表 5 今後行ないたいレクリエーション活動について

順位	項目	全体		男		女	
		数	%	数	%	数	%
1	国内旅行	141	16.2	①64	13.6	①77	19.1
2	各種スポーツ	98	11.2	②53	11.3	④45	11.2
3	ハイキング	79	9.1	⑦31	6.6	③48	11.9
4	園芸・盆栽	68	7.8	③44	9.4	⑥24	6.0
5	海外旅行	66	7.6	⑤36	7.7	⑤30	2.0
6	習いごと(お花)	51	5.8	2	0.4	②49	12.2
7	ドライブ	50	5.7	⑧31	6.6	⑨19	4.7
8	ゴルフ	46	5.3	④37	7.9	9	2.2
9	スキー・スケート	45	5.2	⑨30	6.4	⑩15	3.7
10	レジャー鑑賞	38	4.4	⑩18	3.8	⑧20	5.0
10	水泳	38	4.4	⑤36	7.7	2	0.5
12	水泳	33	3.8	11	2.3	⑦22	5.5
13	創作	25	2.8	17	3.6	8	2.0
14	俳句創作	20	2.3	13	2.8	7	1.7
15	将棋	19	2.2	9	1.9	10	2.5
16	園芸・将棋	17	1.9	17	3.6	0	0
17	詩吟	7	0.8	6	1.3	1	0.2
18	麻雀	5	0.5	3	0.6	2	0.5
19	その他	26	2.9	11	2.3	15	3.7
	計	872		469	50.1	403	43.0

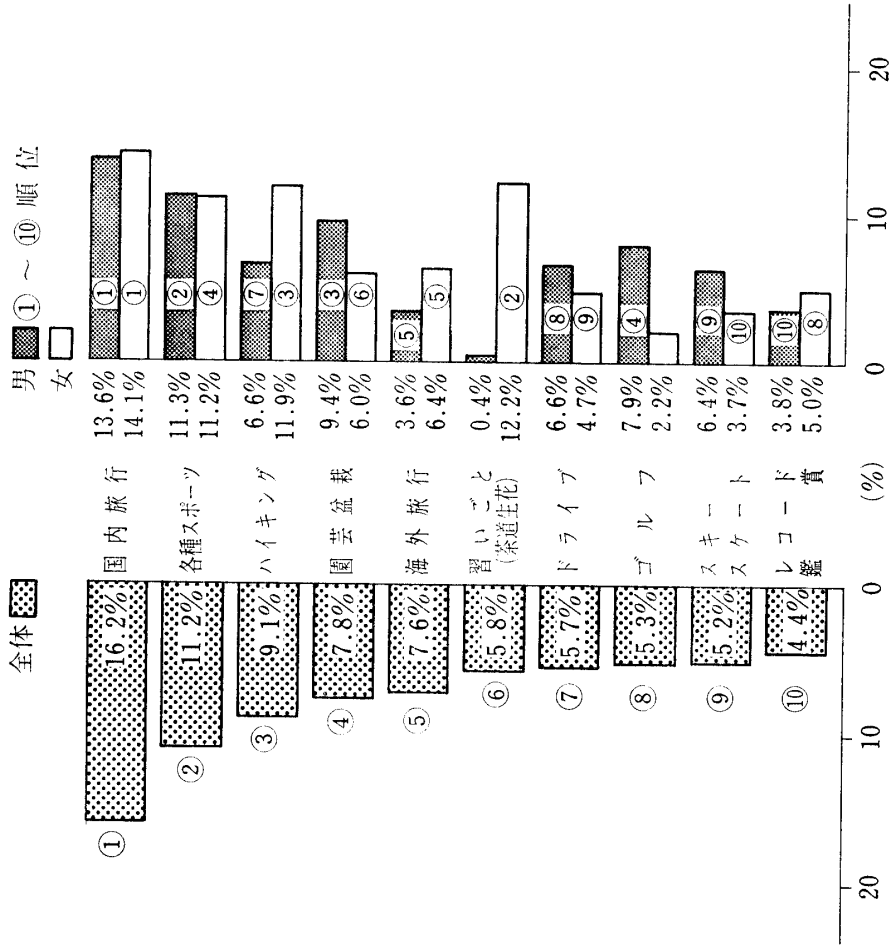


図 10 今後行ないたいレクリエーション活動

表6 レクリエーション活動の利用状況

順位	項目	全体		男		女	
		数	%	数	%	数	%
1	公民館	94	20.1	28	11.0	66	31.0
2	公園	45	9.6	29	11.4	16	7.5
3	体育館	44	9.4	18	7.1	26	12.2
4	川	41	8.8	38	15.0	3	1.4
5	河川敷	37	7.9	27	10.6	10	4.7
6	学校	35	7.5	21	8.3	14	6.6
7	文化会館	28	6.0	12	4.7	16	7.5
8	テニスコート	23	4.9	12	4.7	11	5.2
9	水泳プール	21	4.5	14	5.5	7	3.3
10	図書館	19	4.1	6	2.4	13	6.1
11	野球場	14	2.9	13	5.1	1	0.5
12	神社寺の境内	11	2.3	5	1.9	6	2.8
13	老人ホーム	7	1.5	4	1.6	3	1.4
14	民俗資料館	4	0.8	2	0.8	2	0.9
15	その他	44	9.4	25	9.8	19	8.9
	計	467		254	51.0	213	42.8

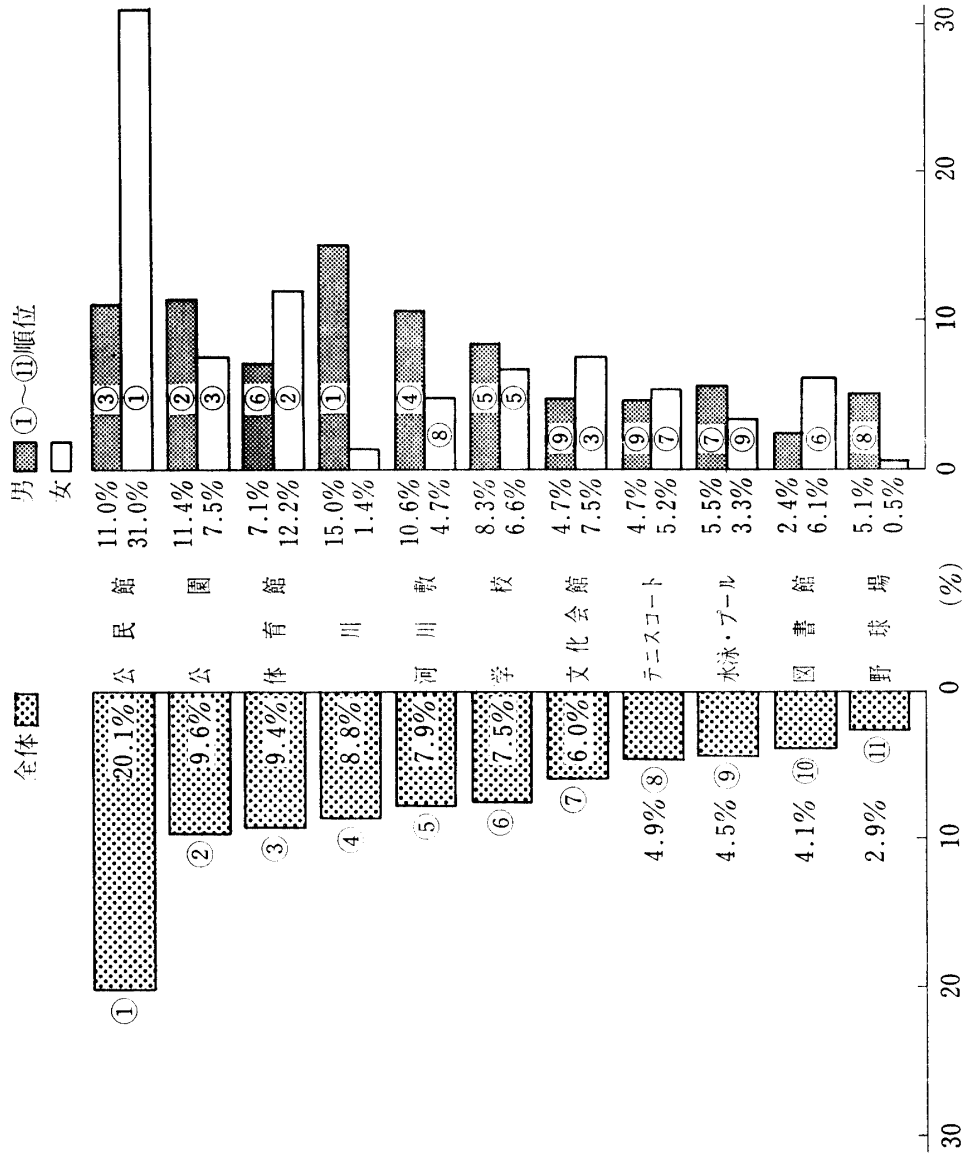


図11 施設利用について

表7 レクリエーション活動希望施設について

順位	項目	全体		男		女	
		数	%	数	%	数	%
1	13 運動公園	170	13.2	93	①13.7	77	①12.7
2	15 植物園	141	11.0	73	②10.8	68	②11.2
3	9 海の家	98	7.6	55	③8.1	43	⑥7.1
4	3 水泳プール	97	7.6	47	⑤6.9	50	④8.3
4	8 山の家	97	7.6	55	③8.1	42	⑦6.9
6	14 動物公園	94	7.3	44	⑥6.5	50	④8.3
7	10 図書館	92	7.2	41	⑦6.0	51	③8.4
8	5 公園	90	7.0	46	⑩5.8	44	⑧7.3
9	11 キャンプ場	76	5.9	40	⑧5.9	36	⑨5.9
10	4 テニスコート	70	5.5	38	5.6	32	⑩5.3
11	7 運動場	64	5.0	40	⑧5.9	24	4.0
12	2 体育館	60	4.7	36	5.3	24	4.0
13	12 老人ホーム	43	3.3	23	3.4	20	3.3
14	1 文化会館	32	2.5	18	2.7	14	2.3
14	6 公民館	32	2.5	15	2.2	17	2.8
16	16 その他	28	2.1	14	2.1	14	2.3
	無回答	④		②		②	
	計	1,284		678	49.0	606	43.8

※ 無回答を除いた数字で%を取った

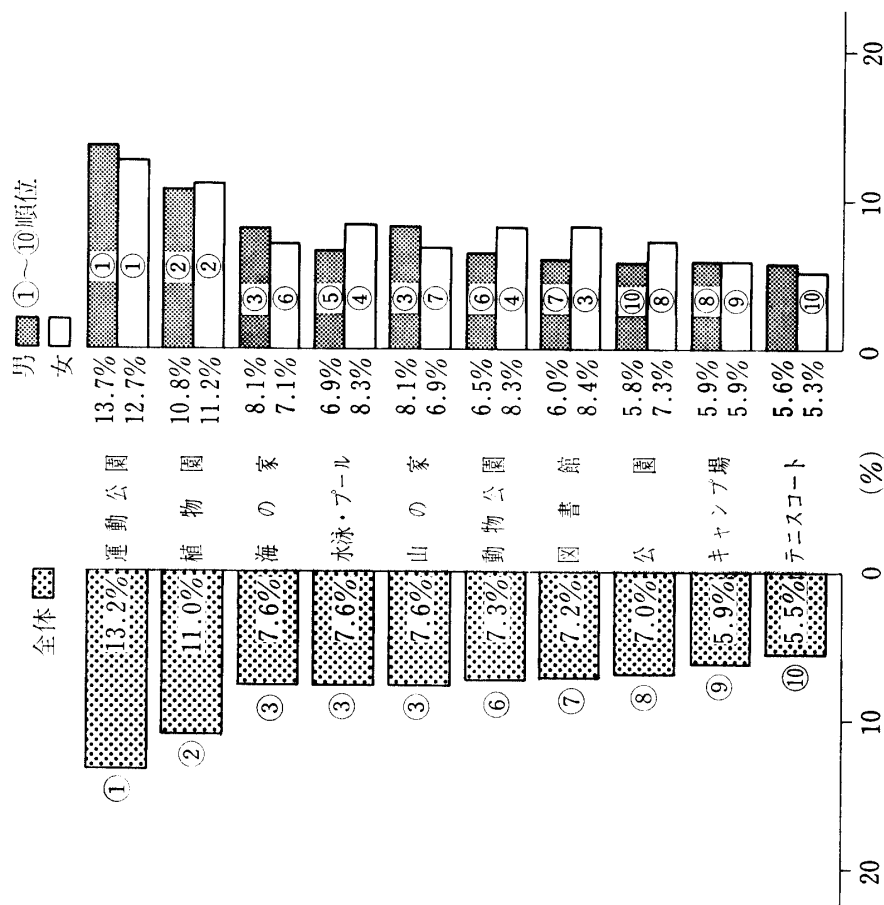


図12 希望施設

れからのレクリエーション施設として望むものとして、運動公園がトップであることから、運動・健康志向を求める傾向が強く、また植物園をあげているのは、坂戸市に無い施設を望む声と思われる。更に海なし県であるこの地域の特徴として、海の家、水泳・プール等を望む声の多いのも当然の結果といえよう。(表7, 図12参照)

資料 坂戸市における余暇活用に関するアンケート

(昭和57年3月)

城西大学保健体育研究室
城西大学地域研究会
協力 坂戸市教育委員会

このたび城西大学保健体育研究室、地域研究会では、地域の都市化現象の一般化するなかで市民生活に大きな価値的变化を与えた余暇利用の課題について、坂戸市教育委員会のご協力を得て調査することになりました。これは、住民の余暇利用の実態をとらえ、市民の余暇教育計画を推進するための資料とするとともに地域研究を推進するためアンケートです。お忙しいところ大変ですが、ご協力頂きたくお願い申し上げます。

- 調査対象者を選挙人名簿から抽せんの方法で選びましたところあなたにあたりました。
- 調査結果は、統計的に処理いたしますので、ご迷惑をおかけすることはありません。思ったままをご記入下さい。
- 郵送の宛名の方がお答え下さい。他の人がかわってお答えにならないようお願いいたします。ご記入の上昭和57年3月31日までに同封の返信用封筒にてご返送下さい。
- 何かお問い合わせがありましたら、お手数ですが、次のところへおたずね下さい。

坂戸市けやき台1-1 (城西大学保健体育研究室)
城西大学地域研究会) 電話 0492-86-2233

- 調査結果については、広報でお知らせいたします。

◇余暇利用に関する調査票◇

(郵便の宛名の方がお答え下さい)

性別 男・女 (○印)

- 問1 あなたの家族の中に次の人がいましたら、すべて○をつけて下さい。
1. 幼児 (1人・2人・3人) 2. 小学生 (1人・2人・3人) 3. 中学生 (1人・2人・3人)
4. 高校生 (1人・2人・3人) 5. 大学生 (1人・2人・3人)
- 問2 あなたご自身の職業にひとつだけ○をつけて下さい。
1. 自営業 2. お勤め 3. 学生 4. 主婦 5. 無職
- 1・2・3のいずれかに○をつけた人だけにおたずねします。
働いている場所、通っている学校はどこにありますか。
1. 坂戸市内 2. 坂戸市外で30分未満のところ 3. 坂戸市外で30分以上59分までのところ
4. 坂戸市外で1時間以上のところ
- 問3 あなたの年齢はおいくつですか、番号を○でかこんで下さい。
1. 20才～29才 2. 30才～39才 3. 40才～49才 4. 50才～59才 5. 60才～69才
6. 70才～79才 7. 80才～89才
- 問4 あなたの自由時間は一週間のうちで何時間くらいあるでしょうか、番号を○でかこんで下さい。(単位時間)
1. 5時間以下 2. 5時間～10時間 3. 11時間～15時間 4. 16時間～20時間

5. 21時間～25時間 6. 26時間～30時間 7. 31時間～35時間 8. 36時間～40時間
9. 40時間以上

問 5 あなたは、自由時間にどんな活動をしていますか、行っているおもな活動の番号を1～5つまで○で囲んで下さい。

1. 読書 2. 絵画 3. 楽器演奏 4. 日曜大工 5. 園芸 6. 盆栽
7. 切手収集 8. 映画 9. 音楽(レコード) 10. TVを観る 11. 演劇
12. 詩 13. 短歌 14. 俳句 15. 麻雀 16. パチンコ 17. ギャンブル
18. 囲碁 19. 将棋 20. 喫茶 21. 飲酒 22. 友人訪問 23. 買物
24. パーティ 25. ドライブ 26. ハイキング 27. ボーリング 28. ゴルフ 29. キャンプ
30. 水泳 31. テニス 32. 野球 33. バレーボール 34. 柔道
35. 剣道 36. 弓道 37. ジョギング 38. オリエンテーリング
39. フィールド・アスレチック 40. ゲート・ボール 41. ダンス 42. 旅行
43. お祭り 44. 詩吟 45. 写真 46. その他()

問 6 あなたは、サークルや同好会に入会していますか、入っているもののすべての番号を○で囲んで下さい。

1. テニス 2. バレーボール 3. ソフトボール 4. ボーリング 5. ゴルフ
6. ハイキング 7. ジョッキング 8. オリエンテーリング 9. つり 10. ダンス
11. コーラス 12. 読書 13. 絵 14. 書道 15. 短歌・詩・俳句
16. 詩吟 17. お茶・生花 18. 陶芸 19. 写真 20. その他()

問 7 あなたは、どんな理由で、レクリエーション活動をしていますか。番号を○で囲んで下さい。

1. 健康のため 2. 多くの方とつきあいたい 3. 生活を楽しくする
4. 明るい家庭づくり 5. 趣味活動で実益をあげる 6. 生きがいづくり
7. 教養を高める 8. 気分転換 9. その他()

問 8 あなたは、レクリエーション活動のどんな講習会、研修会、行事に参加しましたか。参加した種目の番号を3つえらび、○で囲んで下さい。

1. テニス 2. バドミントン 3. 弓道 4. 剣道 5. 柔道
6. ジョギング 7. キャンプ 8. スキー 9. スケート 10. バレーボール
11. ゲートボール 12. 編物 13. 手芸 14. 陶芸 15. 詩・俳句・短歌創作
16. 書道 17. 絵画 18. ゲーム 19. 歌 20. その他()

問 9 あなたは、レクリエーション活動につかうお金は月額いくらぐらいですか番号を○で囲んで下さい。(単位：円)

1. 3,000～5,000 2. 5,001～10,000 3. 10,001～15,000 4. 15,001～20,000 5. 20,001～25,000
6. 25,001～30,000 7. 30,001～35,000 8. 35,001～40,000 9. 40,001～45,000 10. 45,001以上

問10 あなたは、レクリエーション活動を行いたいと思いますか。番号を3つえらび○で囲んで下さい。

1. 海外旅行 2. 国内旅行 3. ドライブ 4. ハイキング 5. キャンプ
6. スキー・スケート 7. レコード鑑賞 8. 詩・俳句創作 9. ジョギング
10. 習いごと(お茶・お茶) 11. 水泳 12. つり 13. 囲碁・将棋
14. 麻雀 15. 各種スポーツ 16. 園芸・盆栽 17. 詩吟 18. ゴルフ
19. その他()

問11 あなたは、レクリエーション活動のとき、どんな施設を利用していますか、次の中からえらび番号を○で囲んで下さい。

1. 公民館 2. 図書館 3. 文化会館 4. 体育館 5. 水泳プール
6. 野球場 7. 公園 8. 神社・寺の境内 9. 民俗資料館 10. 川
11. テニスコート 12. 老人ホーム 13. 河川敷 14. 学校 15. その他()

問12 これから市内にどんなレクリエーション施設があったらよいと思いますか。5つえらんで番号を○で囲んで下さい。

- 1.文化会館 2.体育館 3.水泳プール 4.テニスコート 5.公園 6.公民館
7.運動場 8.山の家 9.海の家 10.図書館 11.キャンプ場 12.老人ホーム
13.運動公園 14.動物公園 15.植物園 16.その他()

問13 何かご希望や、お気づきのところがありましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。
今後ともよろしく申し上げます。

5. 概 括

本調査結果から坂戸市民の余暇志向の傾向について、次の3つの視点から整理してみた。

- (1) 家族構成の状況から捉えてみると、家族は、夫婦に子供2人もしくは子供1人という核家族の傾向であること、これは、日本の家族構成の傾向と同じである。
- (2) 職場と家庭との関係については、男性が勤めに出て、女性は、専業主婦もしくは、近所で勤めという人が大半であるが社会参加の傾向も見られる。
- (3) 年齢層については、坂戸市人口の年齢別分布と本調査の分布がほぼ一致していること。
- (4) 余暇そのものについては
 - ① 余暇活動のための、自由時間が持てない人の方に分布が傾いているが、自由時間が多い人もかなりおり全体に幅広く分布している。しかし、女性の自由時間は、男性に比較すると、少ない傾向にあること。
 - ② 余暇の過ごし方では、男性は、休息型が中心で、女性は、休息型の気分転換型の傾向であること、内容的には、活動による休養の在り方を示しているようである。
 - ③ 余暇活動の種類としては、男性は、アウト・ドアタイプであり、女性は、ライフ・スタイルに属すること、内容的には、きわめて多様化の傾向であり健康志向や創造志向が強くてている。
 - ④ 余暇活動の出費については、つつましい傾向の人が多いがかなりの出費をしている人もありこの分布も幅広い傾向である。しかし、女性の出費は、特につつましい傾向である。だが余暇増大の傾向や余暇意識の変化の中にあって、余暇活動の出費は、多くなるであろうと予測される。
 - ⑤ 余暇の施設利用は、坂戸市が自然環境が保たれていることもあり、自然を利用したの余

暇活動が多いように思われる。しかし、都市化現象も浸透している現状の中で計画的にレクリエーション（スポーツを含む）施設を推進することが課題になるであろう。

⑥ 余暇の講習会、研修会、行事等の参加状況についても、男性は、アウト・ドアタイプ志向、女性は、ライフ・スタイル志向とかなりはっきりと区別できること。今後は、野外活動や文化教養に関する講習会が期待される。以上のことから、坂戸市民の余暇志向の傾向は、全般に、都市型、郡部型と区別するならば、都市型の余暇志向といえよう。したがって野外活動やスポーツ活動、さらに教養を高める活動を推進し、地域縁や文化縁を緊密にし新しい生きがいのある、喜びのある。地域づくりが必要となるであろう。今回は、実態をマクロに捉えるための調査であり、横断的調査であったが、ほぼその目的は、達せられたといえる。

今後については、

- (1) ミクロに分析するために、（項目別クロス集計、階層別による分布を取るデーターをより充実すること。
- (2) 都市型、郡部型の典型的な箇所を選出し調査比較を行うこと。
- (3) 調査を定期的実施して、市民生活の変貌の状況を縦断的に捉え、余暇の実状を、把握すること。この3点について更に分析し、市民の余暇志向に立脚し市民生活の、ブレーションとなるよう推進してゆきたい。地域に根ざした、特に坂戸市及び周辺地域への貢献のため、大学として科学的見地からの役割を担うことが重要なことであるといえよう。おわりに、本調査に、ご協力頂いた坂戸市住民の皆様、坂戸市並びに坂戸市教育委員会に対し心より感謝申し上げる次第です。

資 料

坂戸市における余暇活用に関するアンケート

引用参考文献

- (1) 暮らしの統計82 一国民生活統計年報一 経済企画庁国民生活課 1982.5 大蔵省印刷局
- (2) 国民生活選好度調査 経済企画庁国民生活局国民生活課査課編 1977 大蔵省印刷局
- (3) これからの生活と自由時間 一その現状と対策の方向 経済企画庁国民生活政策課編 1977.7 大蔵省印刷局
- 注 *1 統計坂戸一昭和59年度版一 坂戸市総務部庶務課 1984.11 坂戸市役所
- (4) 余暇文明へ向かって J.デュマズディテ 中島巖訳 1980.12 東学創元社
- (5) 余暇の科学1 余暇社会学 松原治郎編 1977 10 垣内出版株式会社
- (6) 10年後の生活予測 経済企画庁国民生活局国民生活調査課編 1976.3 大蔵省印刷局
- (7) ブルー、カラーの余暇観, TASC 余暇問題研究会(門脇厚司, 吉川栄一, 上田利男共著) 1974.7 至誠堂